新名神高速道路（高槻JCT・IC～神戸JCT間）

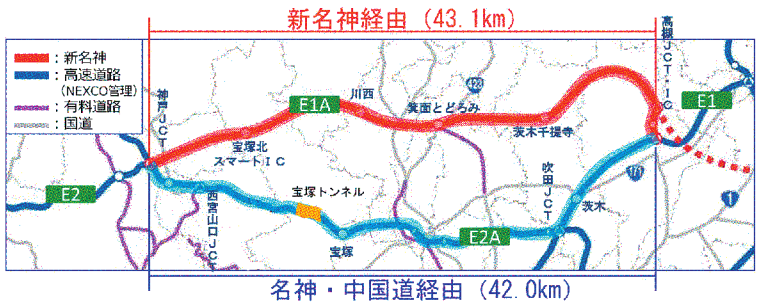
全線開通後1年間の交通状況およびストック効果

NEXCO西日本は、平成30年3月18日（日）に全線開通した新名神高速道路高槻JCT・IC～神戸JCT（延長43・1㌔）の1年間の交通状況及びストック効果をとりまとめ発表した。

【交通の分散効果】

◇新名神により、名神・中国道（高槻～神戸）の渋滞回数が約75％減少

新名神が開通し、高槻～神戸間のダブルネットワークが完成したことにより、名神・中国道側の交通量が約20％減少し、交通の分散がはかられた。また、分散により名神・中国道側の渋滞回数は約75％減少、事故件数も約35％減少した。開通前（2017年）のGWと比べ、2019年のGWの交通量は約30％増加した一方で、20㌔以上の渋滞回数は減少している。



【新たな物流軸の構築】

◇中国道・阪神高速～名神利用の貨物車の約8割が新名神に転換

中国道・名神から多くの大型車が新名神へ転換しており、新名神を利用する車の2台に1台は大型車となっている。また、新名神開通前に中国道または阪神高速～名神ルートを利用していた貨物車の約8割が、開通後に新名神経由の走行経路に転換している。

【一般道の交通状況が改善】

◇並行する国道の渋滞が緩和され、日々の移動が楽に

新名神沿線の住民400人を対象に行ったアンケートでは、国道171号・176号の主要交差点において、「新名神開通後、事故・渋滞が減ったと感じた」との声が挙げられた。また、国道171号・176号の交通量や渋滞も、新名神開通後に減少していることを確認している。

神戸JCT

【沿線地域の交流活性化】

◇遠方から新名神沿線地域を訪れる高速道路利用者が増加

開通前と開通後の8か月間（4月～11月）、高速道路（新名神、名神、中国道）を利用して新名神沿線地域を訪れる人の動きを見ると、約5％増加している。

【沿線住宅地の人口増加・地価上昇】

◇新名神通過市町の住宅団地で人口が増加傾向・地価は上昇傾向

新名神の通過市町では、住宅団地における人口が増加傾向にあり、2012年～2018年の間に箕面森町では約2・6倍、彩都では約1・7倍に増加している。また、新名神の通過市町では地価が上昇している。

【沿線地域の企業立地】

◇開通区間を含む広い地域で企業の立地が進む

新名神の通過市町では、物流施設や大規模小売店の立地が進んでいる。また新名神通過市町だけでなく、その外側の地域、中国道等の沿線においても、新名神開通を見据えた物流施設等が整備されている。

2012年～2018年の間で、物流施設は約40件、大規模小売店は約80件整備が進んでいる。

【高速バス事業の効率化】

◇新名神が高速バス事業を支援

新名神が開通し、中国道、名神を利用している高速バスが、定時性確保の観点から新名神を迂回路として利用し始めている。また、遅延が軽減されたことにより、大渋滞が見込まれた交通混雑期でも交代運転士なしでの運行が可能になる等、高速バス事業のさらなる活性化を支援している。

【遠方での校外活動を支援】

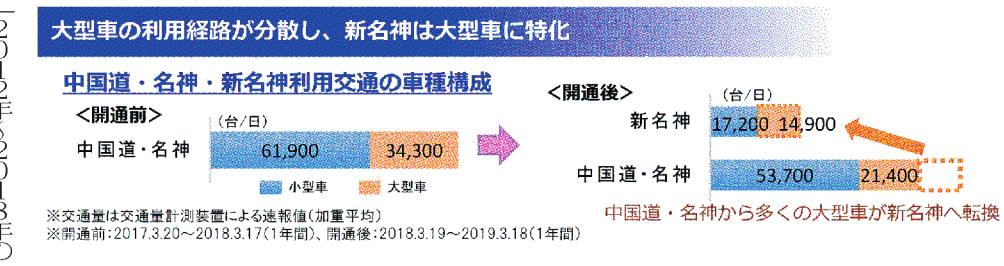
◇移動時間の短縮により現地での活動時間が増加

遠足等の学校外の活動においても、新名神の開通により移動時間が短縮され、現地での活動時間をこれまでよりも多く確保することができるようになった。

【周辺交通量の増加】

◇新名神開通により交通量が増加。事業中区間の着実な整備を推進

開通した高槻JCT・IC～神戸JCT間では、名神・中国道の交通が分散したが、高槻JCT以東の現在事業中の区間に並行する名神高速等については断面で5％前後交通量が増加した。また、開通区間の東側にあたる名神・京滋バイパスは、交通量増に伴い、渋滞回数が約30％増加した。



本四架橋のストック効果

JB本四高速は、神戸淡路鳴門自動車道、瀬戸中央自動車道（瀬戸大橋）、西瀬戸自動車道（瀬戸内しまなみ海道）の3ルートからなる本四架橋開通による経済効果をとりまとめ発表した。

昨年は、神戸淡路鳴門自動車道が全通20周年、瀬戸中央自動車道が開通30周年、また今年5月には西瀬戸自動車道が開通20周年を迎えた。

【交通ネットワーク変遷】

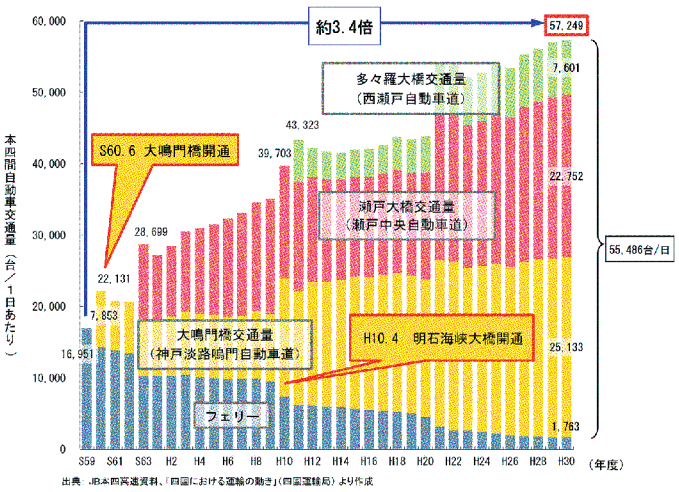
本四高速道路を含め、本州側、四国側ともに、高速道路の整備が進められたことにより、瀬戸内地域周辺では高速道路による広域交通ネットワークが形成された。

これにより、瀬戸内地域などの主要都市からの3時間圏域は大きく広がり、平成30年3月時点での3時間圏域の面積は、大鳴門橋開通前の昭和60年3月と比較して約6・9倍となった。

【自動車交通量、貨物物流量】

本州・四国間の自動車交通量は、本四高速道路の開通により飛躍的に増大し、昭和59年度は1万6，951台であったが平成30年度5万7，249台と約3・4倍に増加した。また、自動車貨物流動量も、昭和59年度と平成29年度で比較すると、約2・4倍に増加した。

神戸淡路鳴門自動車道（明石海峡大橋）



【経済効果】

本四架橋の経済効果は全国におよび、平成30年の効果額は約2・4兆円、このうち四国地方の効果額は約0・9兆円で、四国地方の総生産の約6％に相当する。瀬戸中央自動車道が開通した昭和63年から平成30年までの31年間の経済効果額累計は約41兆円となった。

【生活】

四国のコンビニ店舗数が、瀬戸大橋開通から約30年で8倍以上増加した。また、明石海峡大橋の開通と同時に送水管が設置され、本州側から淡路島への送水が開始されたことにより、淡路島内での給水制限が解消されている。

【農水産品、製造・物流】

愛媛県今治市はタオルの生産量が日本一で、平成29年の国産タオルに占めるシェアは約58％を占める。生産量全国一である愛媛県産の「養殖真鯛」が高い鮮度で大都市の市場へ出荷できるほか、広島県産「レモン」は全国一の収穫量となり、近年ではレモンを加工した商品が島内外各地で販売されるなど、6次産業化による地域活性化にもつながっている。

【観光】

しまなみ海道は、アメリカのテレビや新聞で紹介され、サイクリストの聖地としても知られ、レンタサイクルの貸出台数は、10年前の約3倍に増加し、外国人の利用も多くなっている。

【救急・災害】

本四架橋の3ルートが開通し、豪雨や台風による各種交通機関の通行止め・運休が発生した場合も、それぞれのルートが迂回路として機能している。

「道の駅」第51回登録

6駅が登録され、全国で1，160駅に！

駅名	設置箇所	路線名	整備手法	オープン予定
遠軽森のオホーツク	北海道紋別郡遠軽町野上150番地1	一般国道450号	単独	令和元年度
グランテラス筑西	茨城県筑西市川澄1850番地	一般国道50号	一体	令和元年度
たかねざわ元気あっぷむら	栃木県塩谷郡高根沢町大字上柏崎588番地１	町道434号線	単独	令和2年度
野沢温泉	長野県下高井郡野沢温泉村大字虫生2375	一般国道117号	単独	令和元年度
伊豆月ケ瀬	静岡県伊豆市月ケ瀬78-2	一般国道414号	一体	令和元年度
筑前みなみの里	福岡県朝倉郡筑前町三並866番地	主要地方道筑紫野三輪線	一体	令和2年度

※道の駅の整備手法には、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類あり、上表「整備手法」欄では、「単独」「一体」と記載している。

令和元年11月7日～11月8日 第33回日本道路会議開催

http://www.road.or.jp/conference/

公益社団法人日本道路協会は、主催する「第33回日本道路会議」の参加者を募集している。

日本道路会議は、道路の行政、建設、維持管理、都市計画及び道路交通に取り組んでいる全国の関係者等が参画して、道路に関する広範な問題について研究成果を発表し、意見を交換するわが国最大の会議である。

今回は、新たな時代を意識した道路の役割強化と新技術との融合に視点を置いた基調講演を予定している。

【開催概要】

《日程》

令和元年11月7日（木）～11月8日（金）

《会場》

都市センターホテル

東京都千代田区平河町2-4-1

TEL 03-3265-8211

《プログラム》

▽基調講演テーマ

「深層学習の進化が与える道路政策へのインパクト」

▽海外事情などの最新情報の提供

▽直面する課題に関する先進事例・最新情報の共有と意見交換

▽先進的な取組・研究成果の論文発表や取組事例の報告等

《主催》

公益社団法人　日本道路協会

《後援》

国土交通省

《申込・参加費》

会議への参加には参加申込が必要。また、日本道路協会の会員・非会員にかかわらず参加できる。

※参加費には資料代が含まれる。

◇申込

日本道路会議ホームページより

◇参加申込期限

令和元年10月18日（金）

◇参加費

〔一般〕10，000円（申込期限内・10月18日まで）、15，000円（申込期限後・10月19日以降）

〔学生〕3，000円

◇支払い方法

会議終了後（11月下旬）に請求書を発送する。

※発表者は、改めて聴講申込をする必要はないが、連名者で会議に参加する方は聴講の申込が必要。

《問い合わせ先》

公益社団法人　日本道路協会

第33回日本道路会議事務局

〒100-8955東京都千代田区霞が関３-３-１

TEL 03-3581-2211

E-mail dourokaigi@road.or.jp

申込・詳細はホームページで。